



ごりようかく

文責:長澤永子(教頭) Tel0267-82-2331

◆84日間の2学期がスタートしました!◆

1学期末は急な学級閉鎖、学校閉鎖にご対応いただきありがとうございました。新型コロナウイルスの感染の猛威はどこまで続くのでしょうか?どこまで子どもたちの楽しい時間が奪われてしまうのでしょうか?やるせない気持ちで胸が苦しくなりますが、ここで負けてはいけません。新型コロナウイルスと共に生きる!苦しい中ですが、できることを工夫して行えるよう知恵と工夫と行動で「今できること」を常に考え、2学期も過ごしていきたいと願っています。保護者の皆様にはご理解ご協力をいただき感謝です。2学期もよろしくお願いいたします。

◆7月・8月の各学年の校外学習の様子◆



4年:長野市見学



5年:キャンプ



6年:社会見学



3年:公民館学習



2・3年:川遊び

いつもと違う環境で教室から飛び出した体験学習は、子どもたちにとっても心に刻まれる活動です。みんないい顔していますね。教室ではできないこと、友だちの新たな面を感じたり、学習の発見があったりと深い学びに繋がっています。

8月15日16日:学校見学会が行われました◆



お盆のお休みにふるさとへ帰ってきた方々、地域の方々、多くの卒業生の方々が来校されました。当時のことを思い出しながらゆっくり学校見学をされていました。「学校ってこういう匂いするよね。おとなになってから来ても、なぜかホッとします。親子三代でお世話になりました。」などとお話を伺いました。お一人お一人の記憶の1ページに、この日の思い出が加わった一日になりました。「ふるさとの学校」っていいものですね。

◆8月・9月・10月の予定◆

<8月>

- 25日(木) P T A 評議員会
- 26日(金) 来入児保護者会(4校合同)

<9月>

- 1日(木) 避難訓練②
- 2日(金) プール納め
- 5日(月) 運動会特別時間割~16日
- 10日(土) P T A 作業・資源回収
- 16日(金) 運動会前日準備
- 17日(土) 閉校記念運動会
- 21日(水)・22日(木) 白田中銀河祭
- 29日(木) 音楽鑑賞会
- 30日(金) 6年修学旅行説明会

<10月>

- 3日(月) 峠マラソン下見
- 5日(水) 教育課程研究協議会(お休み)
- 6日(木) 就学時健康診断
- 11日(火) 峠マラソンボランティア説明会
- 15日(土) 閉校記念田口峠遠足マラソン
- 20日(木)・21日(金) 6年修学旅行
- 26日(水) 学級P T A
- 28日(金) 峠遠足マラソン予備日

★2学期は行事が目白押しですね。一つ一つの行事をじっくり、たっぷり、充実し思い出にいっぱい
行事にしていきたいと思います。

校長室だより

正しいことは一つじゃない

校長 井出 誠一

三十代後半、私が一年生の担任をしていたときのこと。入学期の一年生にとって、学校の生活リズムに慣れることは規律ある集団生活を営む上で大切であると考えた私は、「休み時間の終わりのチャイムが鳴ったら、すぐに教室に戻ってくることを学級の約束の一つに加えた。一年生の子どもたちは素直である。どの子もこの約束を必死で守り、三時間目の始まりが遅れることはまったくなかった。

そんなある日、いつものように休み時間終わりのチャイムが鳴り、子どもたちが教室に戻ってきた。ところが、さあ授業を始めようという時になって、Kくんの席が空席になっていることに気付いた。

「ああ、とうとう、この日が来てしまったか。」

Kくんは、自由奔放でクラスのきまりよりも自分の興味や関心が優先する傾向が見られる子だった。授業に遅れる子が出るとすればKくんが最初ではないか、と私は勝手に予想していた。

五分ほどたって教室に入ってきたKくんに、他の子どもたちの視線が一斉に向けられた。

「Kくん、どうして遅れちゃったの？」

私は、優しさを装ってそうたずねたが、表情や語気には、彼を悪者扱いする気持ちが表れてしまっていたように記憶している。

「算数コーナーで遊んでいたんだけど、チャイムが鳴ったらみんな急いで帰っちゃって、片付けがしてなかったから、ぼくが片付けてきた……。」

消え入りそうな声で答えるKくん。いつもの明るい表情の彼とは全く違っていった。「算数コーナー」というのは、ブロックや色板、数え棒やサイコロなど、算数の授業で使う教具を自由に使って遊べるコーナーのことである。私はすぐに自分の誤解に気がつき、申し訳ないことをしてしまったと心から悔いた。

「そうかあ。ごめんね、Kくん。遅れないように帰ってくることは大切なことだけど、きちんと後片付けをすることだって大切なことだよ。ありがとう。」

取り繕うように言った私だったが、彼に対する申し訳なさを拭うことはできなかった。

私たちは、つい自分の「正義」を振りかざし、それを正しさの唯一の基準と考えてしまうことがある。その陰で、相手の行動を否定したり、誠意をくみ取れなかったりすることはないだろうか。クラスの約束を置いてまで、きちんと片付けを済ませてきたKくんの方が本当の「正義」ではなかったか。

正しいことは一つじゃない。苦い思い出が、今でも私に語りかけている。